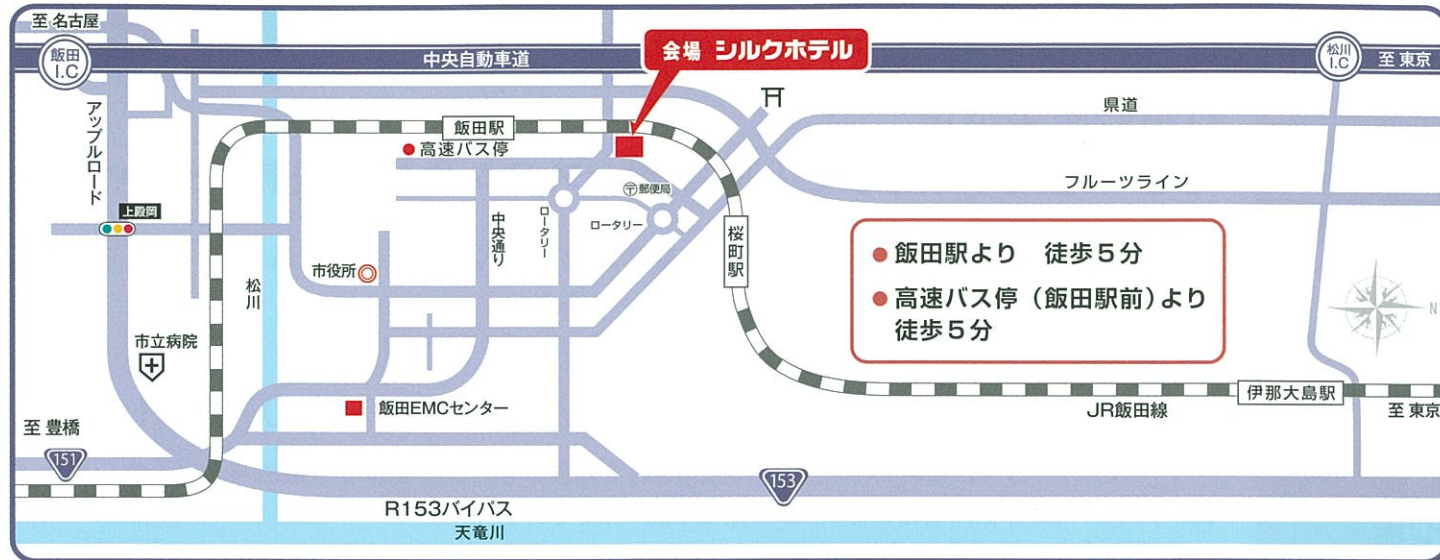


## 会場案内図

シルクホテル 2階 錦繡の間

〒395-0083 長野県飯田市錦町1-10 TEL 0265-23-8383 FAX 0265-24-8383



**交通案内** 東京方面 バスタ新宿より中央高速バスで4時間15分  
名古屋方面 名鉄バスセンターから高速バスで2時間

## 申込方法

- ① 申込先 公益財団法人南信州・飯田産業センター EMCシンポジウム事務局 担当：木下  
〒395-0003 長野県飯田市上郷別府3338-8  
TEL 0265-52-1630 FAX 0265-21-3134
- ② 申込方法 申込書に必要事項をご記入の上、  
FAX または E-mail: [iidaemc@isilip.com](mailto:iidaemc@isilip.com) でお申し込みください。  
なお、シンポジウムに使用する講演テキストは、ダウンロードによる電子データでの配布のみとさせていただきますので、各自紙への印刷又はノートパソコンをお持ち下さい。
- ③ 申込締切日 10月13日(木)、ただし定員(100名)になり次第締め切りとさせていただきます。
- ④ 参加費 お一人様 20,000円  
参加費の振り込みは、10月13日(木)までをお願いします。入金確認後、受講票をお送りします。

振込先：飯田信用金庫城東支店  
普通口座No. 3721722 名義名：EMCイイダ（振込手数料はご負担ください。）

※宿泊をご希望の方は、当センターにてまとめて予約しますので、お申し出ください。  
なお、予約は、シンポジウム会場のシルクホテル（別館5,700円税込（朝食付）、又は、ホテルニューシルク7,500円税込（朝食付））とさせていただきます。その他の宿泊先をご希望の方は、飯田駅前観光案内所（TEL 0265-52-2946）に直接お問い合わせ下さい。

- ⑤ 東京方面・名古屋方面からお越しの場合、交通機関については高速バス 又は 電車をご利用ください。

高速バス時刻表URL <http://www.shinnan.co.jp/>

電車時刻表URL [http://ekikara.jp/newdata/ekijikoku/2301072/download\\_20205121.htm](http://ekikara.jp/newdata/ekijikoku/2301072/download_20205121.htm)

## (第17回)EMCシンポジウムIIDA2016 参加申込書

FAX 0265-21-3134 または  
E-mail [iidaemc@isilip.com](mailto:iidaemc@isilip.com)

会社名	所在地 〒		
氏名	所属部課	TEL	FAX
		E-mail	
氏名	所属部課	TEL	FAX
		E-mail	
氏名	所属部課	TEL	FAX
		E-mail	
利用交通機関	宿泊申込	請求書発行	備考
自家用車 ・ JR ・ 高速バス	要（別館・ホテルニューシルク） ・ 不要	要 ・ 不要	

# 第17回 EMCシンポジウムIIDA 2016

## ～WPT（無線電力伝送）と 航空機のEMC最新動向～

### シンポジウム開催のご案内

- 開催期日 2016年10月20日(木) 13:00から  
2016年10月21日(金) 15:40まで
- 会場 シルクホテル 2階 錦繡の間  
〒395-0083 長野県飯田市錦町1-10

昨今、世界中で電力自由化、再生可能エネルギーの台頭、地球温暖化など、エネルギーに関わる問題が大きな変化を見せ始めています。

また、自動車や航空機等の高度な電子化と大きなパワーデバイスの搭載により、EMCの関心も高まっており、今後更にEMCに対する要求が増すことが予想されます。

そこで、第17回EMCシンポジウムIIDA2016では、このような背景を踏まえ、無線電力伝送と航空機のEMC最新動向について、業界等で活躍されている方々をお招きし、講演して頂きます。

毎回好評をいただいております講師の方々及び技術者間の技術情報交流会も開催いたします。

EMC最新情報収集の場として、多くの皆様方のご参加をお待ちしております。

公益財団法人 南信州・飯田産業センター  
理事長 牧野光朗

主催：公益財団法人 南信州・飯田産業センター

後援：関東経済産業局、一般社団法人 KEC 関西電子工業振興センター

中部エレクトロニクス振興会、長野県、公益財団法人長野県テクノ財団

飯田市、下伊那郡町村会、飯田商工会議所、長野県商工会連合会南信州支部

南信州広域連合、飯田精密機械工業会、飯田電子工業会

開  
会  
式

13:00  
}  
13:10

開会あいさつ  
本シンポジウムについて

基  
調  
講  
演

13:10  
}  
13:50

## パワーエレクトロニクスとEMC

大阪大学大学院 教授 舟木 剛

パワーエレクトロニクスでの更なる省エネルギー化のため、回路の高電圧化が進み、SiCやGaN等のワイドバンドギャップ半導体の登場でスイッチング速度が速くなりつつある。これに伴い、確実に回路中のdv/dt, di/dtが飛躍的に高くなる。このような状況において生じるEMCに技術課題と、開発の方向性について述べる。

13:50~14:00 休憩

講  
演  
1

14:00  
}  
15:00

## 新技術の導入と電磁環境

首都大学東京 理工学研究科 教授 多氣 昌生

新技術の導入では、電磁環境両立性が課題となる。90年代以降、携帯電話の急激な普及による人体ばく露が重要な課題となった。近年、ワイヤレス電力伝送や超高周波無線通信などの新技術が導入され、人体ばく露、他の電波利用との共用の問題が議論されている。本講演では、新技術の電磁環境の課題と、生体電磁環境に関する最新の状況について紹介する。

15:00~15:10 休憩

講  
演  
2

15:10  
}  
16:10

## 中電力非接触充電の電磁界シミュレーション

パナソニック株式会社 プロダクト解析センター 山本 竹志

非接触充電は幅広い周波数を使った商品・技術開発がされている。EMCとしては、低周波の磁界が支配的な領域から、電界・磁界を含む高周波の領域までの電磁界の挙動を掴むことが重要となる。本発表では、測定環境としてのグランドプレーンなどの影響も考慮しつつ、電磁界がどのように分布するかを可視化した結果を報告する。

16:10~16:20 休憩

講  
演  
3

16:20  
}  
17:20

## マルチメディア機器のエミッション規格(CISPR32)の最新動向

NTTネットワーク基盤技術研究所 環境基盤プロジェクト マネージャ 秋山 佳春

マルチメディア機器のエミッション規格(CISPR 32)は、平成27年12月に国内答申が行われ、現在、工業会等での展開が進められている。

本講演では、CISPR 32第2版の概要と、次期バージョンに向けた短期的あるいは中長期的な課題とCISPRにおける審議状況について紹介する。

17:50  
}  
19:50

## EMC技術情報交流会

講  
演  
4

8:45  
}  
9:15

## 日本の産業事情 そして地域産業としての航空機システム産業の振興について

多摩川精機株式会社 代表取締役副会長 萩本 範文

講  
演  
5

9:15  
}  
10:45

## 航空機内の電磁環境

Boeing Technical Fellow RF / Microwave and Antenna Metrology Mr. Dennis Lewis

ワイヤレスデバイスの急増で、同じ場所に設置される装置がどのような複雑な電磁環境を生み出し、また他のシステムとどのように干渉し合うのかを知ることが重要である。

航空機機内の電磁環境はリバイブレーションチャンバーを使うことによって再現することが可能である。電波の伝搬環境とシステム相互の干渉を正確に測定するために、この装置を使用することができる。

航空機機内の電波伝搬特性とフィールドマッピングやチャネル干渉、及び搭乗者負荷をシミュレーションするのに用いられるバルク吸収量(人体が吸収する電波量)を測るために、これらの技術がどのように使用されたかという事例を紹介する。

※当日は通訳があります。

10:45~10:55 休憩

講  
演  
6

10:55  
}  
11:55

## RTCA/DO-160G規格のEMC試験方法の概要と類似規格の紹介

e-オータマ EMC技術部 ゼネラルマネージャ 安藤 大

航空機搭載機器の環境条件及び試験手順を規定したRTCA/DO-160GのEMC試験方法の概要と類似規格である米軍規格(MIL-STD-461)や車載機器向けEMC規格(ISO, CISPR)についても一部紹介する。

11:55~12:55 休憩

講  
演  
7

12:55  
}  
13:55

## 航空機 脚装備品のLightning試験

住友精密工業株式会社 航空宇宙技術部 マネジャー 森本 浩

近年の航空機装備品のエレクトロニクス化に伴い、安全性の観点からEMC要求もさることながら、耐雷性要求も厳しくなっている。耐雷性要求は間接雷と直撃雷の要求分類にされ、RTCA DO-160でも規定されているが、実際の試験方法は専門家の間でも考え方が異なっているのが現状である。本講演では、実際に民間機開発で実施した試験方法を例に挙げ、実情を紹介する。

13:55~14:05 休憩

講  
演  
8

14:05  
}  
15:35

## EMIと航空機の安全性

Lund Avionics President Mr. Carl Lund

航空機は7~10年おきに機能/性能向上の機内見直しが行われる。この見直しには座席のみならず乗客の娯楽のためのIFE(機内エンターテイメント)も含まれる。従来のIFEは乗客が座席で番組選択するオーディオビデオ機能であったのに対し、現在のIFEはインターネット接続や携帯電話サービスも含む。この種のシステムは、シート群単位に装備される多数のCPUを搭載した電子装置であり、機体の通信装置や航法装置を妨害する可能性のある高調波RFノイズを発生する。

本日はそのような電子装置の認可条件と運用上の安全面について概観するとともに、増設される電子装置の影響を排除し安全性を確保するため、機体搭載システムとディスプレイのEMCについて紹介する。

※当日は通訳があります。

閉  
会  
式

15:35  
}  
15:40

## 閉会あいさつ